

令和5年度 田尻さくら高等学校 学校評価 補足資料

学校評価の意義

(高等学校に準用)

小学校は、文部科学大臣の定めるところにより当該小学校の教育活動その他の学校運営の状況について評価を行い、その結果に基づき学校運営の改善を図るため必要な措置を講ずることにより、その教育水準の向上に努めなければならない。

[学校教育法第42条]

回収率

生徒：(R2)79%→(R3)71%→(R4)75%→(R5)57% (WEB回答82%/紙回答18%)

令和3年度から引き続きQRコードを読み取ってスマホからも提出できるようにした。また、紙の用紙には漢字にすべてふりがなを付けた。なお、文字のフォントサイズも紙の用紙ではサイズアップしている。

保護者：(H30)64%→(R1)51%→(R2)63%→(R3)52%→(R4)49%→(R5)42%

例年通り第2回考査の通知表と一緒にアンケート用紙を郵送、紙で提出していただいた。回収率が年々低下しているため、次年度以降に実施方法や調査内容の改善を検討したい。

(%)

校訓・教育目標・スクールポリシー		R5 肯定的評価	R4 肯定的評価	前年比差 +UP -dwon
生3	校訓を知っている。[本校の校訓 (1) 自律 (2) 進取 (3) 誠実]	78	74	4
保1	「教育目標」を理解している。	94	91	3
生4	学校として、スクールポリシーに基づいた教育課程が編成・実施されている。	86		
保2	学校として、スクールポリシーに基づいた教育課程が編成・実施されている。	97		
今年度、新設のスクールポリシーに関する質問がなされた。生徒・保護者の多くがスクールポリシーに基づいた教育課程の編成および実施がされていると認識していることが分かる。				

学習指導		R5 肯定的評価	R4 肯定的評価	前年比差 +UP -dwon
生6	田尻さくら高校の特色である少人数授業は、授業内容を理解するのに役立っている。	97	94	3
生13	学ぶ意欲を引き出し、学力を身につけられるような授業が行われている。	88	86	2
保3	田尻さくら高校は子どもの教育に熱心に取り組んでいる。	91	95	-4
保6	お子様は、学習の仕方や内容を身につけている。	82	82	0
保7	田尻さくら高校の特色である少人数授業は、授業内容を理解するのに役立つ。	100	98	2
保13	学ぶ意欲を引き出し、学力を身につけられるような授業が行われている。	93	89	4
少人数授業による授業内容の理解については肯定的評価の割合が保護者で100%、生徒が97%となっており、本校の特色が受け入れられていると思われる。一方で、本校の教育の熱心さに対しては、前年より保護者による肯定的評価が下がっている。保護者・生徒の両者からは、少人数授業を生かし、学ぶ意欲を引き出して、学力を身につけられるような授業を行うことが求められている。				

図書館の利用		R5 肯定的評価	R4 肯定的評価	前年比差 +UP -dwon
生7	図書館は利用しやすい雰囲気である。	85	86	-1
保8	お子様たちの学習や読書活動に図書館が役立っている。	68	73	-5
図書館については、生徒の肯定的評価が毎年8割を超えており、今年度は聴講生の利用もあることから、本校では異世代交流の場ともなっている。今年度の4月から11月の図書貸し出し数は、627冊(生徒:253冊、教職員:199冊、聴講生:175冊)である。昨年度は、同時期に生徒、教職員のみで422冊であり、今年の貸し出し数は上がっている。また、昨年一年間の貸し出し数は、596冊であり、コロナ禍前のH30年度の1147冊(生徒442冊、科目履修生270冊、教員435冊)には届かないものの、生徒たちは図書館を授業や休憩等でも利用しており、生徒の居場所の一つとなっている。一方、保護者には生徒の学習活動や読書活動の場として図書館が利用されているイメージが薄いことが分かる。				
保護者の意見には、II部の生徒でも図書館が利用しやすい環境であればいいという要望もあり、II部帯への図書館開放は昨年度も意見として頂戴していたことから、図書館の開館時間については職員の勤務時間・生徒の要望や利用マナーなどを考えながら今後、学校として検討されることが望ましい。				

生活指導		R5 肯定的評価	R4 肯定的評価	前年比差 +UP -dwon
生8	生徒指導は、社会常識を踏まえており、適切である。	89	84	5
保9	生徒指導は、社会常識を踏まえており、適切である。	88	94	-6
生14	挨拶やマナーなどの基本的生活習慣の確立に関する指導が行われている。	90	89	1
保14	挨拶やマナーなどの基本的生活習慣の確立に関する指導が行われている。	89	93	-4
生活指導全般については、生徒は昨年度比で肯定的評価が上回った。しかし、反対に生徒指導・挨拶・マナーともに保護者は、肯定的評価の割合が下がっている。挨拶はコミュニケーションの基本であり、社会では欠かせないものである。生徒からも積極的に出来るように指導して行かなければと思う。マナーについても、校内外の公共の場におけるルールを粘り強く生徒に伝え、社会人としての規範意識を持って生活するように話していきたい。教職員には、社会常識を踏まえ適切な指導を今後も進めていくことが期待されている。				

愛好会活動		R5 肯定的評価	R4 肯定的評価	前年比差 +UP -dwon
生17	愛好会活動は活発に行われている。	76	76	0
保17	愛好会活動は活発に行われている。	81	68	13
今年度はコロナ感染症の5類移行により、行事や様々な活動がコロナ禍前の賑わいを取り戻し、保護者に生徒の活動や活躍を見ていただく機会が戻ったことから、保護者の肯定的評価が大きく上がっている。				

自治会活動		R5 肯定的評価	R4 肯定的評価	前年比差 +UP -dwon
生18	自治会活動は活発に行われている。	80	72	8
保18	自治会活動は活発に行われている。	91	80	11
今年度はコロナ禍前の水準である肯定的評価80%前後の評価となった。愛好会活動と同様に、学校行事や活躍の場面がコロナ禍以前に戻り、保護者にも自治会の活動が高く評価されている。				

学校行事		R5 肯定的評価	R4 肯定的評価	前年比差 +UP -dwon
生19	スポーツ祭や高校祭、講演会など、有意義な学校行事がある。	93	90	3
保19	スポーツ祭や高校祭、講演会など、お子さんにとって有意義な学校行事がある。	90	94	-4
学校行事や講演会は、高い評価を得ている。				

進路指導		R5 肯定的評価	R4 肯定的評価	前年比差 +UP -dwon
生9	進路に関する資料はわかりやすい。	89	88	1
生15	進路志望別見学会や進路講話など、進路目標の明確化に向けた適切な指導が行われている。	94	92	2
保10	進路に関する各種情報が適切に提供されている。	93	92	1
保15	進路志望別見学会や進路講話など、進路目標の明確化に向けた適切な指導が行われている。	93	90	3
本校の進路指導全般について、生徒・保護者から高評価であった。本校では、1年次から進路見学会やセミナーがあり、進路決定後も内定者のための学習会や講話と進路指導が充実している。				

生徒の健康管理		R5 肯定的評価	R4 肯定的評価	前年比差 +UP -dwon
生10	保健室は利用しやすく、自分の心身の健康管理に役立っている。	85	85	0
保11	学校としてお子様の心身の健康管理に努めている。	96	91	5
生11	日常の清掃活動にまじめに取り組んでいる。	85	80	5
保12	学校として日常の清掃活動がなされており、衛生的である。	96	94	2
生徒の保健室の利用について、今年度は4月から11月までで利用数は1628人、昨年度1年間の利用数は、2743人と利用度が高い。一日平均で、13.8人が保健室を利用している。一日のどの時間帯も利用者がいる現状からか、保健室に行きづらいという保護者の意見もあった。清掃では、生徒からの意見で、掃除の時間を十分に取るよう掃除の改善を求める声もあった。				

災害時の避難・連絡		R5 肯定的評価	R4 肯定的評価	前年比差 +UP -dwon
生12	災害・非常時の避難方法や連絡方法は伝えられている。	89	84	5
保21	保護者に対して、災害・非常時の避難方法や連絡方法は伝えられている。	97	92	5
毎年、年度初めにさくらメール登録を行い、災害・非常時に備えている。防災訓練時の災害・非常時の安否確認メールの練習は、生徒の防災に対する意識付けに役立っていると考えられる。停電想定をして暗いII部帯に実施する避難訓練や、すまいる園との合同避難訓練を行い、防災ボランティアをはじめとして、生徒の防災意識を高めた。				

特色ある学校づくり		R5 肯定的評価	R4 肯定的評価	前年比差 +UP -dwon
生20	田尻さくら高校は、地域や伝統などに根ざした特色ある学校づくりに取り組んでいる。	87	80	7
保20	田尻さくら高校は、地域や伝統などに根ざした特色ある学校づくりに取り組んでいる。	92	94	-2
さくらギャラリーで夏はボランティア生徒が作った七夕飾りのもと書道展を実施し、初春には書初め展を行っている。今年度はオープンキャンパスで茶道の生徒たちがお点前を披露して中学生にお茶をふるまっている。また、4年ぶりにするめ天旗づくりを沼部小学校の児童と行うなど、伝統文化に根ざした学校づくりに取り組んでいる。				

学校の情報		R5 肯定的評価	R4 肯定的評価	前年比差 +UP -dwon
生21	保護者に対して、田尻さくら通信やさくらメールなどによって、学校の情報は適切に伝えられている。	92	91	1
保22	保護者に対して、田尻さくら通信やさくらメールなどによって、学校の情報は適切に伝えられている。	98	96	2
メール配信、さくら通信等を通して、保護者や生徒に学校の情報が適切に伝わっている結果が反映されている。				

校舎等の施設設備		R5 肯定的評価	R4 肯定的評価	前年比差 +UP -dwon
生22	校舎やグラウンドなどの施設や設備は整っている。	90	83	7
保23	校舎やグラウンドなどの施設や設備は整備されている。	98	95	3

教育相談		R5 肯定的評価	R4 肯定的評価	前年比差 +UP -dwon
生16	教員やカウンセラー、ソーシャルワーカー、学校生活適応支援員が必要なときに相談に応じてくれる体制ができている。	88	90	-2
保16	教員やカウンセラー、ソーシャルワーカー、学校生活適応支援員が必要なときに相談に応じてくれる体制ができている。	87	97	-10
昨年度に比べ、生徒・保護者が学校の相談体制に評価を低くしている。生徒・保護者が必要とするタイミングとマッチするように相談の機会を設けていくことが求められている。				

いじめの早期発見・共有		R5 肯定的評価	R4 肯定的評価	前年比差 +UP -dwon
生23	学校として、日頃からいじめの早期発見に取り組んでいる。	82	71	11
保24	学校と保護者が、いじめ問題に対する取組方針を共有している。	78	86	-8
いじめに関する指導については、毎月アンケートを行うなど早期発見に取り組んでいる。いじめに関する指導の共有については、保護者も取組方針の共有が不十分だと感じる割合が2割弱おり、教職員と家庭との連携が求められている。また、全体指導の中で、いじめに関わる問題を取り上げる場面を増やし、学校全体としていじめ問題に取り組んでいることを生徒や保護者に共有されていくことが求められる。				

PTA活動		R5 肯定的評価	R4 肯定的評価	前年比差 +UP -dwon
保5	PTA活動は活発であり、その取り組みは活発である。	89	83	6
PTA活動については、役員保護者、さくら高祭サポーターの方を中心に活動を進めている。PTA役員会では保護者の方々が無理なく参加していただいて楽しみながらPTA活動を行うようにしている。さくら高祭では、多数の保護者・教職員が協力し合い、飲食の模擬店も復活し、バザーも好評であった。PTA通信や「あさかぜ」でもPTA活動の様子を適宜伝えている。				

学校生活の充実度		R5 肯定的評価	R4 肯定的評価	前年比差 +UP -dwon
生5	田尻さくら高校に入学して良かった。	85	85	0
生24	学校生活はとても充実している。	84	77	7
保4	お子様を田尻さくら高校に入れてよかった。	97	99	-2
保25	お子様の学校生活は充実している。	81	92	-11
例年この評価を提出された保護者の9割以上が「田尻さくら高校に子どもが入学してよかった」との回答をしており、本校の教育活動に肯定的な評価がなされている。生徒の充実度も高くなっている一方、保護者から見る生徒の学校生活の充実度は、昨年度よりも低下しており、保護者アンケートで、授業を通じて学力を身に付けること、学校行事の有意義度も下がっていることから、確かな学力を身に付けたと生徒が実感したり、学校行事での生徒の充実度を高めたりする指導や工夫が必要と思われる。また、生徒・保護者にとって適切なタイミングで相談・指導体制を今まで以上に構築することが、期待されている。				